

TTC 提案山行実施記録

2016年9月22日 報告者: ST

山行名	越後駒ヶ岳 [2002.7m/新潟県] (1/2)																																			
実施日	2016年9月17日[土]~18[日] 1泊2日(避難小屋泊)																																			
レベル/参加人員	レベル:★★☆ 参加人員:申込名11名/実施12名 交通手段:マイカー2台利用																																			
パーティスタッフ	CL/計画: SL: 会計: 救護: 写真:ドライバ1:ドライバ2: スタッフ名削除																																			
参加メンバ	☆ 参加者氏名削除 (男性6名、女性6名) ☆ 班長																																			
費用 9,500円/人 TTCカンパ金: 60円	【内訳】マイカー使用料(@10*600km*2台):¥12,000、ドライバ謝礼:@5000*2台*2日=¥20,000、ガソリン代:@120*600km/5*2台=¥28,800、高速道路代(圏央厚木IC~小出IC):@5160*2台*往復=¥20,640、駒の小屋協力金:@2,000*12名=¥24,000、湯之谷温泉ゆ~パーク薬師入湯料:12名分回数券=¥6,800、通信費:¥1,000、ガソリン代:¥700、カンパ金:¥60 合計¥114,000 ⇒9,500円/人																																			
歩行時間 /行動時間	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="3">9/17[土]</th> <th colspan="3">9/18[日]</th> </tr> <tr> <th></th> <th>歩行</th> <th>休憩</th> <th>行動</th> <th>歩行</th> <th>休憩</th> <th>行動</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ガイドブック</td> <td>6:35</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>4:25</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>計画</td> <td>6:10</td> <td>1:45</td> <td>7:55</td> <td>4:25</td> <td>0:55</td> <td>5:20</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>4:36</td> <td>1:34</td> <td>6:10</td> <td>3:50</td> <td>0:48</td> <td>4:38</td> </tr> </tbody> </table>		9/17[土]			9/18[日]				歩行	休憩	行動	歩行	休憩	行動	ガイドブック	6:35	-	-	4:25	-	-	計画	6:10	1:45	7:55	4:25	0:55	5:20	実績	4:36	1:34	6:10	3:50	0:48	4:38
	9/17[土]			9/18[日]																																
	歩行	休憩	行動	歩行	休憩	行動																														
ガイドブック	6:35	-	-	4:25	-	-																														
計画	6:10	1:45	7:55	4:25	0:55	5:20																														
実績	4:36	1:34	6:10	3:50	0:48	4:38																														

実行コースタイム記録

9/17[土] [体操] 32' 3' 50' 8' 34'

本厚木===圏央厚木IC===上里 SA===大和 PA===枝折峠---枝折大明神祠---明神峠---休憩---道行山分岐---
 5:00 5:10 6:30-53 8:10-20 9:10-30 10:02-12 10:15 11:05-18 11:26
 ---休憩---小倉山---百草ノ池-----前駒-----駒の小屋---越後駒ヶ岳---駒の小屋
 12:00-12 12:23 13:07-20 14:05-15 14:40-15:05 15:22-25 15:40

9/18[日] 57'(雨具着脱15') 30' 1:10 40' 5' 28'

駒の小屋-----百草ノ池---小倉山---休憩---明神峠---枝折大明神祠---枝折峠===
 起床 4:10-5:32 6:44-50 7:20-30 8:40-50 9:30 9:35-42 10:10-25

[入浴、昼食]
 ===湯之谷温泉郷ゆ~パーク薬師===高坂 SA===本厚木
 11:15-13:00 16:30頃帰着

コースの概要、特記事項、反省事項等

シベリアからの北風にさらされる越後の山々の春の訪れはそんなに早くない。例年6月第4日曜日に設定されている“山開き”に実施日を合わせてオリジナルでは計画したが、昨年度に引き続き2年連続で荒天に祟られてしまった。梅雨期真最中であり、好天を期待するのは難しく、本年度はこのタイミングで流れた場合には今回の9/17-18にリベンジとして計画段階から織込み、三度目の正直でやっと実現の運びとなった。

9/17[土] 曇

実施日程が9月中旬に変更になったことにより、日照時間がかなり短くなったことに対応するため、出発時間を計画より早めて、ドライバの方々には早朝4:25頃に自宅をスタートしていただくことをお願いした。マイカー(2台)山行の機動性を活かして市内各所を回ってピックアップ後、一路越後に向かう。3連休の初日であり多少の渋滞は覚悟していたが、早朝出発の効果もあってか順調に流れ、枝折峠には予定していた時間より25分早く到着した。2日目が高い確率で雨の予報となっていることから計画を一部変更して、「駒の小屋到着後、山頂までのピストンをできれば本日中に実施すること、また、下山ルートを変更して枝折峠にピストンで戻ってくることを」メンバに諮って了解を得てから出発した。

小倉山までは小さなアップダウンを繰り返しながら、比較的なだらかな登りを進んでいく。池塘が点在しているところもあり、自然保護の観点から登山道がよく整備されていて歩きやすい。この辺りの木道の銘板を確認すると『平成22年』となっていた。更に百草ノ池までは多少斜度がきつくなるものの、それでも楽な歩行が続き、変化の少ない行程にやや飽きが出るほどであった。百草ノ池から先は急に斜度がきつくなって、目の前に前駒(らしきもの)が見え、その先に小屋~山頂が続く。この辺りの木道には『平成24年』あるいは『平成25年』の銘板があちこちに貼ってあり、この3~6年の間に大々的な登山道全般に渡る整備が行なわれたようである。それより以前の登山道の状態が全く分からないので比較のしようがないが、恐らく格段に歩きやすくなったのではないと思われる。このことは、12名で歩いた今回の山行において全般的に意識してゆっくり歩を進めたと実感しているが、実績歩行時間が計画に対して大幅に短縮された結果となったことから推し量ることができる。登山道整備に携わられた方々に感謝の気持ちで一杯である。雨宿りでもお世話になった“枝折大明神”に心を込めてお礼の気持ちを伝えておいた。この実績を踏まえ、山行レベルを計画時の★★★から実施記録では★★☆に変更することにした。

急坂をしばらく登って行って振り返ると、百草ノ池がポツカリと浮かんでおり、今日歩いてきた道を遠くまで見通すことができた。更に進んで尾根道に出たところで急に眼前の視界が広がって、山頂から遠くの山並みまでが見通せる岩稜帯に出た。急登の疲れを癒してくれる素晴らしい景色で、ここが“前駒”であったことは、帰宅後に『BSプレミアム日本百名

山“越後駒ヶ岳”』で確認して分かったことである。紅葉最盛期はまだまだ先になると思われるが、山肌は薄黄色（2/2）に染まっており、とても優美な眺めであった。また山頂方向を見やると駒の小屋のアンテナが見え目標が明確になった。

前駒よりしばらく進むと小屋手前の最後の急な岩稜斜面に取りつく。ここで全員にストックを片付けるようお願いし、三点確保の基本を守りながら慎重に登っていくと15～20分ほどで駒の小屋に着き、計画に対して約2時間早く到着する結果となった。登山口までのアクセスで時間を短縮できたことと併せて、計画に織り込んでいた“まとまった昼食時間”を割愛して休憩ごとに行動食を摂るようにしたことも時間短縮の要因と考えられるが、前述の“登山道が整備されて歩きやすくなった”ことが大きく寄与したと推定される。

定員40名の小屋に先客が5名ほどいた(結果として、この後の客はなかった)が、2階を我々12名でほぼ占拠して寝場所を確保後、雨具、防寒着、非常食、飲料水程度の軽装備で山頂ピークハントに向かった。ここに至るまで雨に降られることはなかったが、山頂間近になったところで小雨がパラついてきた。前述のBSプレミアム番組の情報によれば、圧倒的なパノラマビューが期待できる山頂であるが、残念ながらほとんど見通しがきかない状態であり、雨具を取り出すほどではない小雨がこのあと急に強くなるような予感があり、集合写真撮影もそこに僅か3～4分の滞在で直ぐに引返し、雨足が強くなる直前に小屋に戻ることができたのは幸いであった。小屋から数分ほど下ったところにある水場までKSさんとSeKさんが代表して汲みに行っていただけになったが、この頃になると雨足が強くなったため雨具を着用し、メンバ全員分のペットボトルを持参しての行動であり、感謝々々であった。

ビールで乾杯してお互いの労をねぎらい、それぞれが持参したウイスキー、日本酒、焼酎、梅酒 etc.を呑みながら、今後の山行に思いを馳せたりしながら暫らく歓談が続いたが、何時に眠りに就いたのか正確には覚えていない。夜になると雨足はかなり強くなって真夜中あるいは明け方近くになると、トタン屋根を打つ雨音はかなり激しく、強風がゴーゴーと唸りをあげており、「小屋直下の急な岩稜帯をこんな状態の中で降りるのは嫌だな…」との思いが頭の中を巡り、悪夢にうなされてしまった。

9/18[日] 曇のち雨

計画で予定していた山頂までのピストンを前日に済ませており、起床時間を遅らせることもできたが、4時過ぎに起き出して朝食の準備にかかった。強雨は収まっていたが止んではない。ところが食事を済ませ、雨具も含めた身支度を全て整えた出発時刻の5時半になると雨がピタリと止んで風もほとんどない。「せめて小屋直下の岩稜帯を下るところだけでも何とかして…」というメンバ全員の祈りが通じたのか、日頃の行ないがよほど良かったのか定かではないが、今がチャンスとばかりに、でもゆっくりと慎重に下っていった。雨具を着た状態で岩稜帯を降りてくるとさすがに暑く、汗がふき出してきて、岩稜帯終点で雨具を取り外した。この日は一日中雨模様の予報であったが、空を見上げると一面の曇り空ではあるものの白っぽく高い雲であり、「うまくすると結構もつのではないか？」という気になったが、束の間の喜びであったことはこの後すぐに明らかになった。前駒を経由して百草ノ池までの急坂を降りれば、あとはアップダウンを繰り返しながらも歩きやすい道を下って行くのみである。丁度この頃から雨となって雨具を着用(もしくは傘)となったが、この後、下山口の枝折峠までずっと雨が降り続く結果となった。

湯之谷温泉郷 ゆ〜パーク薬師で汗を流して昼食を頂くと1日半の疲れはスッキリ回復した。高速道路は3連休の中日ということで多少の渋滞はあったもののほぼスムーズに流れて、16時半頃に無事に厚木に到着することができた。

今回の山行の実施判断は『2日間とも降水確率が50%を超えるような場合中止』というガイドラインで計画した。「暴風雨の中でも決行する」というような気持ちは毛頭ないが、「自然を相手の山であるから少々の雨なら、その自然の一部」と受入れて、私はできるだけ決行する方向で考えたい方である。今回は判断に迷う中途半端な予報であり、内容も日ごとにコロコロ変わる、まさにリーダー泣かせの状況であったが、最終的には1日目が“ほぼ一日中曇り”の予報に落ち着いたところで、決行の判断を下した。今回の参加メンバの皆さんは優しい方が多く、「中止になるかな？と半分あきらめていたけど、実施できてよかった…」というようなコメントを何名かの方から頂き、とてもありがたく感じた。2日目の雨の中を下山してくる際に、遠望する山々の間の窪みは雲に覆われており、場所によってはその雲が流れて滝雲になっているところもあった。雨によって空気中の塵が洗い流されているのかどうか分からないが、峰々の青さがよりクッキリと感じられるような気もして、雨模様だからこそ見たり、遭遇したりすることができる良さもあると改めて感じた。

このところの山行計画あるいは実施直前の判断において、“少々の雨ならば決行する”というような雨天(冬季の場合は雪)に対するハードルがドンドン高くなって中止となるケースが増えているような気がしている。中止となる割合は、天候だけが理由ではないかもしれないが、以前に比べて明らかに増加している気がして調べてみると、約10年前の2006-07年頃と比べると2倍以上の割合で増加している現状であることが分かった。以前は雨の中を歩く山行が結構多かった気がしていたが、決して気のせいではないように思われる。山行の実施判断については基本的にリーダーに任されていて、人によって考え方が異なることがあってもよいと思っているので制約を与えるつもりはないが、TTCのモットーに掲げられている言葉の1つに“自然を愛し”とあり、何かを感じ、考えていただける契機にでもなればと思い、コメントさせていただいた。

最後になりますが、参加いただいた皆さまのご協力により、和気藹々としたとても良い山行になりました。心よりお礼申し上げます。